

# 阪大分会ニュース

関西単一労働組合大阪大学分会  
 大阪市淀川区十三東 3-16-12 TEL&FAX:06-6303-0449  
<http://handaibunkai.xxxxxxxx.jp/>  
 E-mail:handaibunkai@yahoo.co.jp

あらゆる相談受付中！！

正規・非常勤・派遣・委託など1人でも  
 入れる組合です

## 長期非常勤職員の2015年3月末解雇阻止！ 5年上限撤回！

### 「人権無視の使い捨てを許さない！」

阪大分会・石橋美香組合員(人間科学研究科)

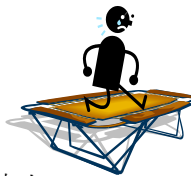


大阪大学は2009年10月に「お知らせ」出して、特例職員にならない限り、2015年3月末で雇止め(解雇)すると決めました。特例職員は、職場も労働時間も変更される上に、採用枠も少ししかありません。結局、今も在籍している170名もの長期非常勤職員のほとんどは2015年3月末で解雇されるということです。

#### なぜ、働き続けられないのか？

この素朴な疑問に対する阪大の答えは、法人化後採用の5年・6年しか働けない非常勤職員との不均衡「異なる取扱い」を解消するというものです。5年・6年しか雇わないと決めたのは阪大です。徳島大学では有期雇用職員約千人を無期雇用にしました。やろうと思えば期限のない雇用はできるのです。しかし、阪大は、無期雇用を「お約束できないから」と言って、短期雇用制度を固持し、次から次へと人を入れ替えているのです。そんな阪大の作った制度のために長期非常勤職員は雇止めされるというのです。

#### 労働者を「お知らせ」ひとつでクビにできる、それが「普通」でしょうか？



そもそも、長期非常勤職員は2004年4月法人化の際に「当分の間、更新可能年数に制限を設けない」として雇用を継続されました。法人化の激変を乗り切るために、継続雇用したのです。それなのに、法人化の激変を乗り切ったと判断したら、いきなり「終期を決めて」ポイっと放り出すのです。けれど長期非常勤職員は「定年まで働ける」と言われていました。大学は認めようとしませんが、定年というと30年以上先の石橋組合員にも当時の庶務係長は言ったのです。「定年まで働ける」と。それは全学的な認識でした。「定年まで働ける可能性がある」という意味で、「実際定年まで働けた人もいる」と阪大は居直っています。

この「定年まで働ける」という長期非常勤職員の期待を裏切ったのが「お知らせ」です。当時約400人の対象者はみな青天の霹靂だったのです。

#### 10年も20年も働いてきてクビになるというのは、「普通」でしょうか？

法人化の1年前である2003年から人間科学研究科図書室で働いている石橋組合員は10年以上働いています。長期非常勤職員は10年、20年と雇用契約を更新・継続してきました。長期非常勤職員は、その10年、20年の経験でもって職場を支える立場になっています。また、長期非常勤職員に頼らざるを得ない環境をつくってきたのです。業務がなくなるわけでもなく、経験のある長期非常勤職員は必要な存在です。

私たちは、今の世の中で、5年・6年という期限を付けられた雇用を「普通」と感じさせられています。でも、仕事もあって、これまで継続雇用されてきた実績のある人間が、理由もなくクビになるというのはやはりおかしいのです。阪大のように突然に「終期を決める」というのは不当です。

こんな阪大の滅茶苦茶なやり方が広まっては嫌だ。非正規だから期限があるというのが「当たり前」でも「普通」でもない。非正規であっても人間らしく働き、生きていきたい。そんな思いで、この2015年3月末解雇阻止を闘っています。共に闘いましょう！！

## 関西圏組合と共同の取り組み

### 5・1 阪大抗議メーデーを闘ったぞ！



今年の5・1メーデーは、関西圏大学非常勤講師組合（関西圏組合）と共催でおこなった。学内外の労働者・労働組合が結束して、悪質極まりない阪大への抗議の声をあげ、“闘うメーデー”を取り組めたことは大変意義があった。特に、連合のメーデーに安倍首相が来賓で参加するという労働運動の右傾化の中で、非正規労働者が自力で“闘うメーデー”を貫徹したことはおおいに誇らしい。

集会では、関西圏組合と石橋組合員の決意表明の

### 5・25日本労働法学会にて、 阪大の悪質な非正規差別の実態を知らせたぞ！



5月25日（日）、阪大豊中総合学館にて日本労働法学会が開催された。私たちは、阪大の労働法なきに等

しい悪辣な労働者支配の実態を全国に知らせる絶好の機会であるにとらえ、また、労働法学会の今日的テーマであり、労働法学会への参加者が阪大に対して批判の声を上げることを期待して、リレーマイク情宣活動をおこなった。阪大の非正規労働者差別政策の中心人物である大学院司法研究科の小嶋典明教

授と、その弟子で、不誠実団交の中心人物である中谷伸二本部人事課第三係長は学館玄関横に立ち、私たちに監視・敵対しつづけた。彼ら二人を前に、石橋組合員、関西圏組合の新屋敷委員長と組合員、あばけん神戸、阪大のアイヌ民族差別と人権侵害を闘う阪大人骨問題の真相を究明する会、釜ヶ崎パトロールの会らから次々と怒りの声があがった。当日は早朝の受付開始からピラまきをおこない、約300枚のピラがまけた。「頑張ってください」と励ましの声や阪大に対する怒りの声もあった。小嶋典明教授と中谷伸二係長を前に、徹底して阪大の悪辣さを社会的に暴露糾弾できた。



後、阪大教職組の北泊副委員長や工学部支部の組合員、あばけん神戸、吉田組合員、労闘の仲間、関単労の仲間からの力強い連帯の挨拶があった。また、南労会、なかまユニオン、全関東単一労組、北海道の仲間から連帯のメッセージも届いた。メーデー決議文を確認した後、阪大本部へ抗議行動をおこない、本部周辺を元気にシュプレシながらデモを貫徹した。

なお、正規・非正規労働者は共催メーデーピラを共感をもって受け取ってくれた。私たちはそのことに勇気づけられている。



授と、その弟子で、不誠実団交の中心人物である中谷伸二本部人事課第三係長は学館玄関横に立ち、私たちに監視・敵対しつづけた。彼ら二人を前に、石橋組合員、関西圏組合の新屋敷委員長と組合員、あばけん神戸、阪大のアイヌ民族差別と人権侵害を闘う阪大人骨問題の真相を究明する会、釜ヶ崎パトロールの会らから次々と怒りの声があがった。当日は早朝の受付開始からピラまきをおこない、約300枚のピラがまけた。「頑張ってください」と励ましの声や阪大に対する怒りの声もあった。小嶋典明教授と中谷伸二係長を前に、徹底して阪大の悪辣さを社会的に暴露糾弾できた。

### 署名にご協力を！

長期非常勤職員の2015年3月末解雇を阻止する闘いは、まさしく正念場をむかえました。このたび、私たちは阪大に対して2015年3月末雇止め解雇を撤回し、全員の継続雇用を求める賛同署名を取り組みます。全学の労働者の皆様のご協力をお願いします。

### ☆☆☆非正規労働者の談話室☆☆☆

6月19日 いずれも木曜日  
7月24日 6時～9時  
8月21日 第2会議室

豊中市立千里中央公民館

(千里中央駅下車)